

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀市立諸富北小学校
1 前年度 評価結果の概要	<p>○研究主任を中心として「学力向上」に全職員で取り組んだ。国語科を中心とした授業づくりについて職員の共通理解を図ったり、外部講師を招いての研修会を実施したりして充実した研究を進めたことが、児童の学習意欲の向上、学力向上へとつながった。今年度も基礎基本の定着を図るとともに、自分の考えの根拠を明らかにし、自信をもって意見を表現できる指導法の工夫に取り組んでいきたい。</p> <p>○心の教育では、組織的な取組がいじめや人権への意識の向上につながった。道徳や特別活動の充実をはじめ、ソーシャルスキルトレーニングや構成的グループエンカウンター等の活動を取り入れたコミュニケーション力を高める取り組みを今後も継続していきたい。</p> <p>○地域、保護者との連携については、PTA活動の工夫や充実、学校評議員の支援や助言により、学校と地域や保護者と連携して取り組むことができた。また、「食育」について全校的に取り組んだことで給食の残棄が大幅に減少した。今後も学校とPTAが連携して保護者への啓発を一層進めていきたい。</p> <p>○働き方改革については、職員の「セルフマネジメント」「タイムマネジメント」の認識をより一層深める研修を継続して行うとともに、様々な学校行事の「ねらい」を再検討しての統廃合や過去データの整理及び有効活用を進めていくことで、「意識化」だけではなく、実務的な業務改善を行ってきたい。</p>
2 学校教育目標	<p>自ら学び、心豊かに、たくましく生きる児童の育成</p> <p>○子どもが生き生きと学習し、確かな学力を身に付けさせる学校 ○一人一人を大切に、子どもの輝きをつくる学校 ○規律正しく、家庭・地域から信頼される学校</p>

3 本年度の重点目標	<p>①学力向上に向け、国語科での授業研究を軸に他教科へと実践研究を広げ、考え判断する力（活用力）を高めていく。さらに、スキルタイムや家庭学習の工夫により基礎学力を付けていく。</p> <p>②すべての教育活動を通して、いじめや差別の防止に努める。</p> <p>③一人一人の特性に応じた支援を行い、自立と社会参加の素地を作る特別支援教育の推進を図る。</p> <p>④家庭や地域と情報を共有し、PTAと連携して教育活動を強化する。</p> <p>⑤基本的な生活習慣や生活規律を重視し、細やかな情報発信を通して家庭への啓発に努める。</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師の割合が100%になる。 ●「授業づくりのステップ123」を意識した授業づくり及び振り返りの実践を達成した教師の割合が100%になる。	・教職員間でマイプランを共有する。また、「授業づくりのステップ123」を校内研修の時間等で確認して、授業を構成する際もふり返る際も活用することで取組の促進を図る。							
	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業及び習熟ための実践	○授業の流れを視覚化するボードを活用して授業を行ったという教師の割合が100%になる。 ○学習に関するアンケートにおいて「学習した内容がわかった、できるようになった」と回答する児童の割合が90%以上になる。	・どの教科でも「授業づくりのステップ123」を踏まえ、児童が「主体的に学ぶ時間」を確保することを意識した授業実践を行う。							(研究主任・副主任・CO) 小宮・嘉村・松永
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●道徳科に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童が90%以上になる。 ○心を育てる教育に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした保護者が90%以上になる。	・一人一人を大切に人権教室(年間3回)と「いじめ・命を考へる日」に人権・いじめ・命に関するアンケート(毎月)を適切に実施する。 ・友達に温かな言葉を書き合う「ハートタイム」(毎月)を実施する。 ・道徳科の授業づくり、エンカウンターに関する校内研修等を年間1回以上実施する。	・一人一人を大切に人権教室(年間3回)と「いじめ・命を考へる日」に人権・いじめ・命に関するアンケート(毎月)を適切に実施する。 ・友達に温かな言葉を書き合う「ハートタイム」(毎月)を実施する。 ・道徳科の授業づくり、エンカウンターに関する校内研修等を年間1回以上実施する。						
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等)について組織的対応ができていると回答した教師が100%となる。 ○いじめのない学校づくりへの取組に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした保護者が90%以上となる。	・いじめの認知・寛恕に対する対応マニュアルの再検討を行い、全職員による研修会を実施する。 ・毎月の児童アンケート、年間1回以上の保護者アンケートを実施する。 ・児童と担任による個人面談を計画的に年間2回以上実施する。 ・全職員による支援会議をもとに、いじめ・不登校への対応をチームとして組織的に行う。							(生徒指導担当・教育相談担当) 鶴田・相島・行武・山田
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○Q-Uアンケートにおける「学校生活満足群」に属する児童が、1回目より2回目以上上がる。 ○「先生はあなたのよいところを認めてくれて、いると思う」と回答した児童が90%以上になる。 ◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童が90%以上になる。	・児童が「わかった」「できた」を実感できるような授業づくりに向けて校内研修等の充実を図る。 ・「良さ見つけカード」や「良い行動の共有・称賞」などに取り組み、児童の自尊感情(自己肯定感情)を高める。 ・自分の将来の夢や希望について考える授業を計画的、積極的に行う。 ・学級活動や各種体験活動において、自分の成長を児童自身が自覚できるように、活動の見直しと学びの振り返りを行う活動を仕組みとする。	・児童が「わかった」「できた」を実感できるような授業づくりに向けて校内研修等の充実を図る。 ・「良さ見つけカード」や「良い行動の共有・称賞」などに取り組み、児童の自尊感情(自己肯定感情)を高める。 ・自分の将来の夢や希望について考える授業を計画的、積極的に行う。 ・学級活動や各種体験活動において、自分の成長を児童自身が自覚できるように、活動の見直しと学びの振り返りを行う活動を仕組みとする。						
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	○食育や健康教育への取組に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした保護者が90%以上になる。 ○ゲームやテレビ、インターネットなど、家庭で決めた時間を守れていることに関するアンケートにおいて肯定的な回答をした保護者が75%以上になる。	・学級活動において、栄養教諭による食育授業を実施し、「早寝、早起き、朝ごはん」の意識を高め、定期的に実践を振り返り、生活時間と食事のとり方の改善を行う。 ・給食において適量の配膳を行い、残棄を減らす意識を高め、習慣付けを行う。 ・毎月1日の「ノーテレビデー・ノーゲーム・ノースマホデー」を定着させ、自主的、計画的に規則正しい生活を送る実践力を高める。							(体づくり部) 岡田・山崎・末次・嘉村・相島
		●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(月45時間、年間360時間)を遵守し、勤務時間を意識した働き方改革を推進・定着させる。	・毎週の定時退勤日の確実な実施に努める。 ・退勤時刻の上限を設定し、退勤時刻までの時間を個人で効果的に活用する「タイムマネジメント」の意識化を図る。 ・各自の業務改善に対する意識や実行力を高めるための研修会を年間3回以上実施する。 ・職員会議を含む各種会議等の内容(議題)精選と協議項目の精選を図るとともに、ペーパーレス化を進め、職員の負担軽減と会議の効率化を図る。							

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○地域・保護者との連携	○PTAとの連携による行事や教育活動の円滑な実施	○保護者参加型の教育講演会への参加者が60%以上になる。	・学級懇談やPTA活動の教育講演会などの機会に、スマートフォン等の使用状況や弊害、また、学力・学習の現状について教師と保護者、保護者同士の情報交換の機会や座談会を行い、学力向上、生活習慣の向上への意識を高める。 ・教育課程の中に人材活用や体験学習を位置づけ、総合的な学習の時間や各教科の時間において地域人材、施設、文化財を計画的に活用する。							
	○地域人材を活用し、地域の特色を生かした教育活動や体験的活動の推進	○地域人材、施設、文化財等を活用した体験活動への取組に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした保護者が90%以上になる。	・発達障害児の理解、自立活動に関する内容、UD教育に関して研修会を実施し、校内環境のUD化を推進を図り、特別支援教育の充実につなげていく。 ・特別支援教育に関わる支援会議等を充実させ、個別の支援計画・指導計画の整備を進める。 ・障害者理解の人権集会を行い、特別支援教育に対する理解を求め、 ・必要に応じて巡回相談を依頼し、ケース会議を開く。	・発達障害児の理解、自立活動に関する内容、UD教育に関して研修会を実施し、校内環境のUD化を推進を図り、特別支援教育の充実につなげていく。 ・特別支援教育に関わる支援会議等を充実させ、個別の支援計画・指導計画の整備を進める。 ・障害者理解の人権集会を行い、特別支援教育に対する理解を求め、 ・必要に応じて巡回相談を依頼し、ケース会議を開く。						(特別支援教育担当) 古川・末次・行武・田原・鈴木
○特別支援教育の充実	○交流学級の指示的風土作り ○地域や保護者への啓発 ○UD教育の充実	○特別支援教育に関するアンケートにおいて交流学級、校内における支持的風土づくりが進んだと回答をした教職員が90%以上になる。 ○特別支援学級の児童の学習の様子を保護者や地域の方が参観したり、参加したりする活動を毎学期に1回以上実施する。	・発達障害児の理解、自立活動に関する内容、UD教育に関して研修会を実施し、校内環境のUD化を推進を図り、特別支援教育の充実につなげていく。 ・特別支援教育に関わる支援会議等を充実させ、個別の支援計画・指導計画の整備を進める。 ・障害者理解の人権集会を行い、特別支援教育に対する理解を求め、 ・必要に応じて巡回相談を依頼し、ケース会議を開く。							(特別支援教育担当) 古川・末次・行武・田原・鈴木

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--